

The logo of Rikkyo University is a circular emblem in a light purple color. It features a central shield with a cross and a crown on top. The shield is surrounded by a circular border containing the text 'RIKKYO UNIVERSITY' at the top and 'MDCCCLXIV' at the bottom. Inside the shield, there is a smaller shield with a cross and a crown, and the Latin motto 'PRO DEO ET PATRIA' is visible.

被災地における 子どもの運動促進プロジェクト

立教大学松尾ゼミ

○熊坂 春子 糸瀬 裕子 加藤 森 西 智史

目次



緒言



現状と課題



作業仮説



具体的な支援策

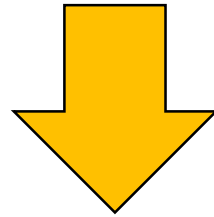


期待される効果

緒言

「スポーツを通じて幸福で豊かな生活を営むことは、
全ての人々の権利」

(平成23年法律第78号スポーツ基本法前文)



福島の子どもたちは
運動・スポーツをしたくてもできない

緒言

2010年度 1～6歳

2016年度 小学1～6年生

福島の小学生の日常的 スポーツ参加促進策を提案



現状と課題

福島の被害(2011年当時の状況)

授業1時間・課外活動2時間と制限する「3時間ルール」等屋外活動を一部制限している学校は全体の43%(2011年10月1日現在)

外で遊べないなんて



福島の子どもの体力問題

表1 2010・2012・2013年度福島県小学生新体力テスト平均値比較表（福島県教育委員会）

学年	男子			女子		
	2010年度	2012年度	2013年度	2010年度	2012年度	2013年度
	平均値					平均値
小2						37.98
小3	42.66					42.66
小4	48.96					
小5						54.11 ↓
小6	61.05					60.48 ↓

震災後の
学年平均値が低下

※新体力テストは、握力・上体前屈・しゃトル・幅跳び・ソフトボールの5種目の成績を1点から10点の10段階で評価するものである。

(例) 2010年度小3男子の2012年度小3男子の数値と
2010年度小3男子の数値を比較⇒0.58ダウン

現状と課題 「2016年福島県小学生体力問題」

乳幼児・児童の発育・発達過程において体を動かすこと
大切な時期に十分な身体活動が

2016年福島県
小学生体力問題

「よくなる」

福島訪問調査

調査概要

1. 時期: 2015年8月22日
2. 対象: 郡山市…NPO法人エストレージャス、PEP Kids Koriyama
福島市…NPO法人いいざかサポーターズクラブ、特定非営利活動法人福島県レクリエーション協会、福島県川俣町富田小学校、Power Up Japan from Tokyo 被災地支援事業(アスリート派遣事業)ふくしま大運動会 in福島大学～夏休み／第2弾 集まれ! 野球キッズ! 2015夏ふくしまベースボールフェスタ、福島大学
3. 方法: フィールドワーク(ヒアリング)調査、イベント参加 (分担して担当)

現状と課題

郡山市



NPO法人 エストレージャス

- ・会員数約200人のサッカークラブ
- ・スタッフは7名
- ・屋外スポーツ実施の現状を知るために訪問



PEP Kids Koriyama

- ・東北最大級の室内運動場
- ・対象年齢は1歳～12歳
- ・室内遊びの現状を知るために訪問

現状と課題

福島市(活動団体)

特定非営利活動法人 福島県レクリエーション協会
事務局長 佐藤喜也さん

NPO法人いいざかサポーターズクラブ



- ・生涯スポーツの普及、コミュニケーションや人間関係づくり等の事業を展開
- ・子どもの体力低下について現場の声を伺うため訪問



- ・福島市飯坂町のまちづくりに関する事業や活動を行う
- ・子どもの遊び場について知るため訪問

福島市（イベント参加）

Power Up Japan from Tokyo 被災地支援事業

福島県川俣町 富田小学校



- ・福島大学の野球部と元プロ野球選手が小学生への野球教室を実施
- ・地域と大学の連携の様子を知るために訪問

- ・地元の高齢者が中心となり、子どもたちが体を動かせるイベントを実施
- ・ボランティアがイベント運営を行う様子を知るため訪問

1.限られた遊び・スポーツの場(1)

指導者の減少



学校の校舎を使用
できないなどの縛り

除染の状況

身近に放射線量が
低い場所がない

現状と課題

1.限られた遊び・スポーツの場(2)

外では遊べない

子どものことは
後回しの傾向

バスでの送迎
を要する

福島県

A green map of Fukushima Prefecture is centered in the image. It is surrounded by four grey thought bubbles, each containing text. The bubbles are connected to the map by small white circles. The text in the bubbles describes current issues and trends related to children's play and sports in the region.

室内運動場の
多くは幼児まで

現状と課題

2. 現地の要望

室内施設を
増やしてほしい

運動を習慣化
させたい



保護者を
巻き込みたい

活動種目を
増やしたい

現状と課題

3. 目に見える体力低下

簡単な運動が苦手な子が多くなった

現在の小1～5年生の体力低下が深刻

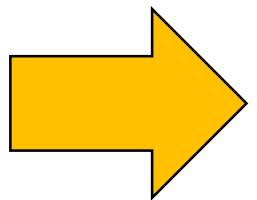


家の中で過ごす習慣(ゲーム等)の定着

現状と課題

現地で行われている対策

- 福島県：運動身体づくりプログラム（小学生）
- 福島市：すまいるあっぷ福島（3歳～小3）
- 郡山市：大型遊具巡回事業（4ヵ月～小学生）
- レクリエーション協会：ニュースポーツの「体験ひろば」、笑顔againプロジェクトなど
- 福島県体育協会：うつくしまスポーツキッズ発掘事業

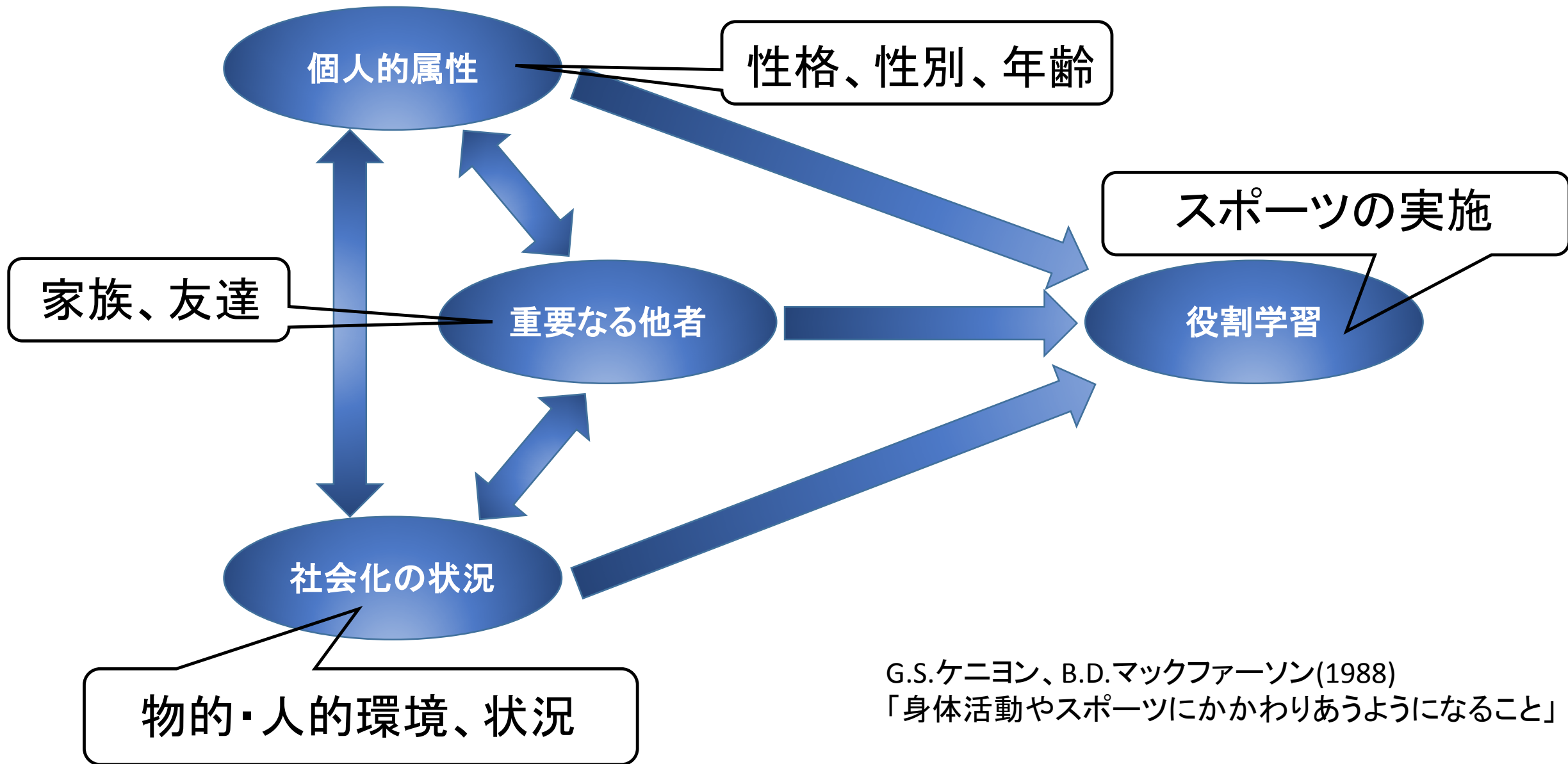


連携がなくバラバラな対応、参加者の限定

見えてきた課題

- 震災当初から現在まで、子どもたちの遊ぶ場所・スポーツをする場所は限られている
- 室内の遊び場、保護者の積極的な参加が求められている
- 子どもの体力低下は目に見える形で現れている。運動習慣が定着しなかった
- 福島県などが対応を行っているが、連携がなくバラバラな対応である。参加者が限定されている

スポーツへの社会化過程3要素



G.S.ケニヨン、B.D.マックファーソン(1988)
「身体活動やスポーツにかかわりあうようになること」

作業仮説

震災後の福島における 子どものスポーツへの社会化

個人的属性

⇒ 2010年度1～6歳の男女

重要なる他者

⇒ 時間的・経済的余裕のない保護者

社会化の状況

⇒ 屋外活動制限、屋内運動施設の不足
運動・スポーツの機会の不足

作業仮説

震災後の福島における 子どものスポーツへの社会化

2010年度1歳～6歳の子どもは

屋外活動制限があり

役割学習



**時間的・経済的余裕のない保護者は
子どもを屋内運動施設に連れていく
ことができず**

**子どもたちは、室内にいることが多く、
運動習慣がつかなかった**

2016年、福島の子どもの運動を！

スポーツステツプアップ
プロジェクト

具体的な支援策

支援策のポイント

親子スポーツアワー

- ・スポーツを通して子どもと保護者の運動意識の向上を図る
- ・学校を基盤にして、他の取り組みや事業との連携を行う
- ・チェックシートで親子での運動の動機づけを図る



放課後子供教室スポーツステップアップアワー

- ・定期的な運動機会を設け、運動の習慣化を図る
- ・様々なニュースポーツを体験し、運動の選択肢を広げる

スポーツステップアッププロジェクト

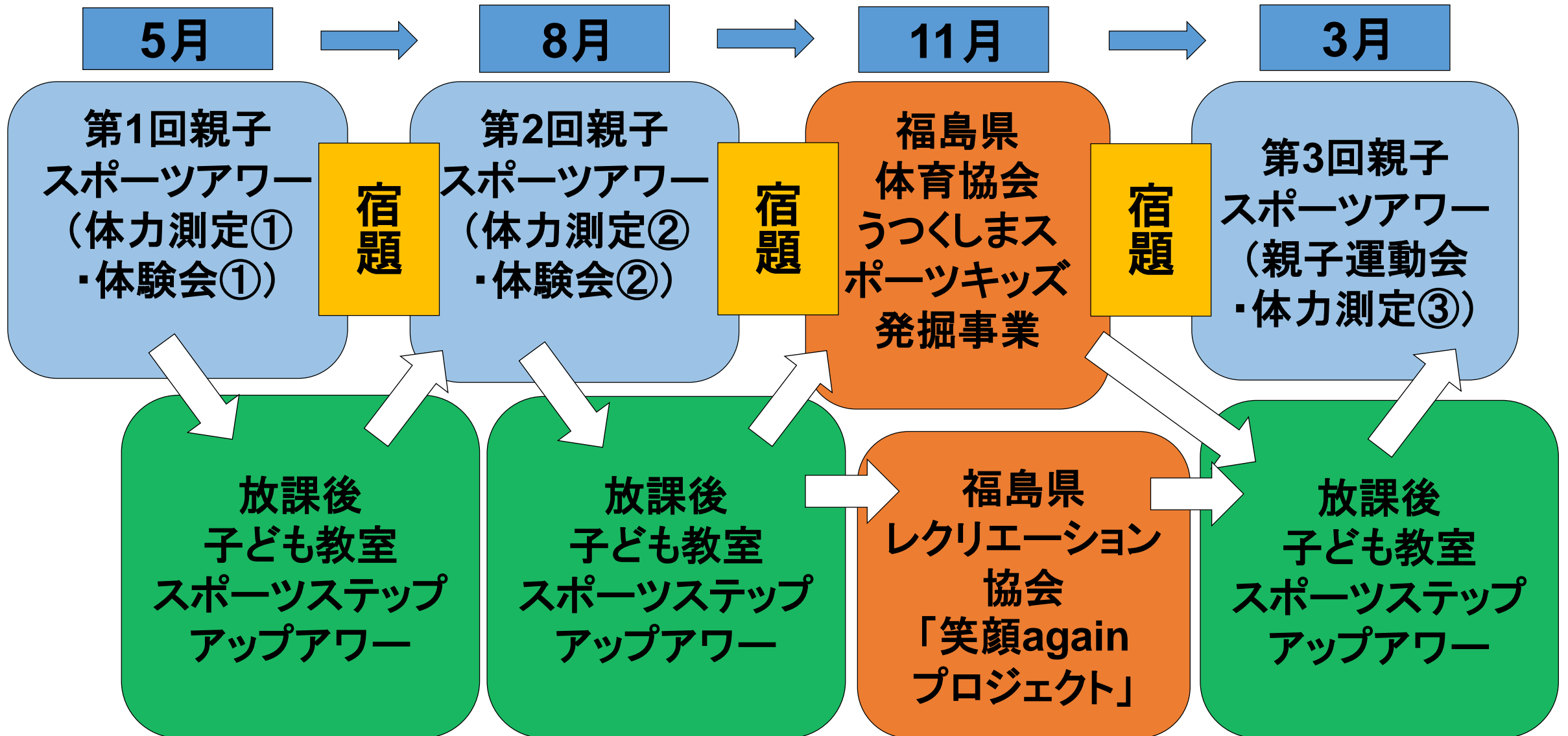
親子スポーツアワー

放課後子ども教室スポーツ
ステップアップアワー

- 「うつくしまスポーツキッズ発掘事業」(福島県体育協会)
- 「笑顔againプロジェクト」(福島県レクリエーション協会)

具体的な支援策

スポーツステップアッププロジェクトの流れ



①親子スポーツアワー

- ・対象者：小学生とその保護者（各20人程度）
- ・実施回数：年4回（5月・8月・11月・3月）【11月は県のプログラム参加】
- ・時間：10:00～15:00
- ・主催：スポーツステップアップサポーターズ
- ・スタッフ：指導者2名、スポーツステップアップサポーターズ8名
- ・協力：学校、福島県体育協会、福島県レクリエーション協会、各ニュー
スポーツ団体、社会福祉協議会
- ・場所：学校の体育館

具体的な支援策

親子スポーツアワー(プログラムの流れ)

5月
第1回親子
スポーツアワー

体力測定①と
スポーツ体験会
①を実施

8月
第2回親子
スポーツアワー

体力測定②と
スポーツ体験会
②を実施

11月
うつくしまスポー
ツキッズ発掘事
業または
笑顔againプロ
ジェクト

プログラムに
参加

3月
第3回親子
スポーツアワー

体力測定③と
親子運動会を
実施



親子スポーツアワー(各内容)

体力測定

親子スポーツアワー
①～③で実施

体力・運動能力テスト

短時間・室内
で行うもの

体験会

親子スポーツアワー
①～③で実施

ニュースポーツ体験
(放課後子ども教室ス
ポーツステップアップア
ワーで体験する種目)

子どもが保護者
にアドバイスでき
るように！

親子運動会

親子スポーツアワー
③で実施

玉入れ・親子リレー
親子二人三脚・綱引き

子どもと保護
者が一緒に行
う競技

具体的な支援策

親子スポーツアワー (1日の流れ・5月開催例)

- 10:00～ 開会式(10分)
- ウオームアップ(10分)
- 体力測定(1時間)
- 11:20～ 体験会(1時間10分)
- 12:30～ 昼休み(1時間)
- 13:30～ 体験会(1時間10分)
- 14:40～ クールダウン(10分)
- 閉会式・宿題(チェックシート)配布(10分)
- 15:00～ 終了



具体的な支援策

支援策との連携

(うつくしまスポーツキッズ発掘事業)



集まれ未来のトップアスリート! 「スポーツ大好き!」「何かスポーツをやってみたい!」という小学生(3~5年生)を募集します。各種のスポーツテストを行い、将来有望な人材の発掘・育成を目指します。

また、興味のあるスポーツに出会い、夢や希望を持ってスポーツに取り組むことができるよう様々な支援を行います。

■主催:公益財団法人福島県体育協会

■共催:福島県

■後援:福島県教育委員会 福島県高等学校体育連盟 福島県中学校体育連盟

■協力:公益財団法人福島県体育協会加盟競技団体

(2015.福島県体育協会)

セーリングや
ホッケーなど
多種多様な
スポーツ体験
会やトレーニ
ング講習会
なども行って
いる

連携

- ・スポーツテストやニュースポーツ体験会などを年間を通して実施
- ・支援策と連携し、より積極的なスポーツ参加やスポーツ交流を図る

具体的な支援策

支援策との連携 (笑顔againプロジェクト)



(2015 東日本大震災復興支援事業)

- ・幼児から高齢者まで幅広い世代をレクリエーションによる支援を実施
- ・子どもたちに「野外キャンプ合宿」を行い、自然体験やレクリエーション、ニュースポーツの体験を行っている

連携

- ・子どもたちの遊びの支援やレクリエーション活動支援などを実施している
- ・支援策での運動と遊びを連携させ、より楽しみの場を広げる

具体的な支援策

チェックシート(1週間の流れ)

	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
6/1	○	○			○		
6/2			○	○			○
6/3		○	○	●		○	
6/4				●			
6/5							
6/6							
6/7							

1日3種目以上
を目標!

Point!

チェックシートは毎親子スポーツアワー時に配布され、親子が一緒に実施できる運動遊びを提供し、家庭でも継続的な運動を行うことを促す。次の親子スポーツアワーまでに行うべき運動量の目安となり、橋渡しの役目を果たす。

- ①腕立てじゃんけん ②2人縄跳び
- ③片足しゃがみ立ち ④じゃんけん馬跳び股くぐり
- ⑤ボール投げ ⑥風船バレー ⑦ウォーキング

②放課後子ども教室 スポーツステップアップアワー

- ・対象者：小学生
- ・実施回数：5月～3月で週に1回
- ・時間：放課後から1時間30分（地域により開始にばらつき有り）
- ・主催：スポーツステップアップサポーターズ
- ・スタッフ：指導者1名、スポーツステップアップサポーターズ4名
- ・協力：学校、各ニュースポーツ団体
- ・場所：学校の体育館

具体的な支援策

放課後子ども教室 スポーツステップアップアワー (1日の流れ・5月開催例)

15:30～ ウォームアップ(10分)

15:40～ 説明(10分)

15:50～ 実践(1時間)

16:50～ クールダウン(10分)

17:00～ 終了



具体的な支援策

放課後子ども教室 スポーツステップアップアワー (種目例)

安全

楽しい

簡単

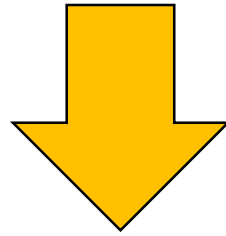
周期

8月

対戦相手。相手が投げ
ボールを必殺キャッチできると
得点が入る。

放課後子ども教室との連携

- ・文部科学省による「放課後子ども教室」と厚生労働省による「放課後児童クラブ」という放課後児童に関する事業を各省が独自に推進
- ・2007年度に両省が一体的・連携して実施する事業である「放課後子どもプラン」が創設される



現在行われている放課後事業と連携し、放課後という時間と体育館などの施設を活用することで支援策を行う

具体的な支援策

運営方法



「スポーツステップアップサポーターズ」
(構成員: 大学生→立教大学・福島大学、
近隣の高校生→運動部・ジュニアリーダー)

社会福祉協議会(人材)

学校(施設・機会)

連携・協力

福島県
レクリエーション協会

各ニュースポーツ
団体

福島県
体育協会

運営体制

社会福祉協議会との連携

社会福祉協議会とは？

社会福祉協議会は、民間の社会福祉活動を推進することを目的とした営利を目的としない民間組織です。

たとえば、各種の福祉サービスや相談活動、ボランティアや市民活動の支援、共同募金運動への協力など、全国的な取り組みから地域の特性に応じた活動まで、さまざまな場面で地域の福祉増進に取り組んでいます。

(2015, 全国社会福祉協議会)

支援策を実施するモデル地域、福島市・郡山市・白河市の各社会福祉協議会にボランティア募集の広報を協力してもらい、スポーツステップアップサポーターズのメンバーを募る。

具体的な支援策

運営費用

親子スポーツアワー

- ・保険料(500円→自己負担)
- ・広報費(ポスター等→3回で30,000円)
- ・人件費(指導者2名→20,000円→3回で60,000円)
- ・施設費(学校のため無償)
- ・チェックシート費用(配布・作成費→10,000円)

3回開催で
100,000円
(保険料を除く)

放課後子ども教室スポーツステップアップアワー

- ・広報費(ポスター等→10,000円)
- ・人件費(指導者1名→ニュースポーツ団体派遣→5,000円)
- ・施設費(学校のため無償)
- ・用具費(ニュースポーツ団体貸し出し用具)

通年で40回開催
予算210,000円

具体的な支援策

運営資金の捻出

ふくしまっ子体力向上総合プロジェクト(教育庁・健康教育課)

原子力発電所事故により低下した児童生徒の体力向上や肥満傾向児の出現率を低下させるため、運動能力向上や食育による健康増進に向けた事業を展開する

76,093,000円

政策

ふくしまの礎

人と地域が輝く
“ふくしま”

ふくしまを支える3本の柱

いきいきとして活かに
満ちた“ふくしま”

安全と安心に支えられた
“ふくしま”

人にも自然にも思いやり
にあふれた“ふくしま”

13の重点プロジェクト

- 1 人口減少・高齢化対策
- 2(1) 環境回復
- 2(2) 生活再建支援
- 2(3) 県民の心身の健康を守る
- 2(4) 未来を担う子ども・若者育成
- 2(5) 農林水産業再生
- 2(6) 中小企業等復興
- 2(7) 再生可能エネルギー推進
- 2(8) 医療関連産業集積
- 2(9) ふくしま・きずなづくり
- 2(10) ふくしまの観光交流
- 2(11) 津波被災地等復興まちづくり
- 2(12) 県土連携軸・交流ネットワーク
基盤強化

基本目標

夢・希望・笑顔に満ちた「新生ふくしま」

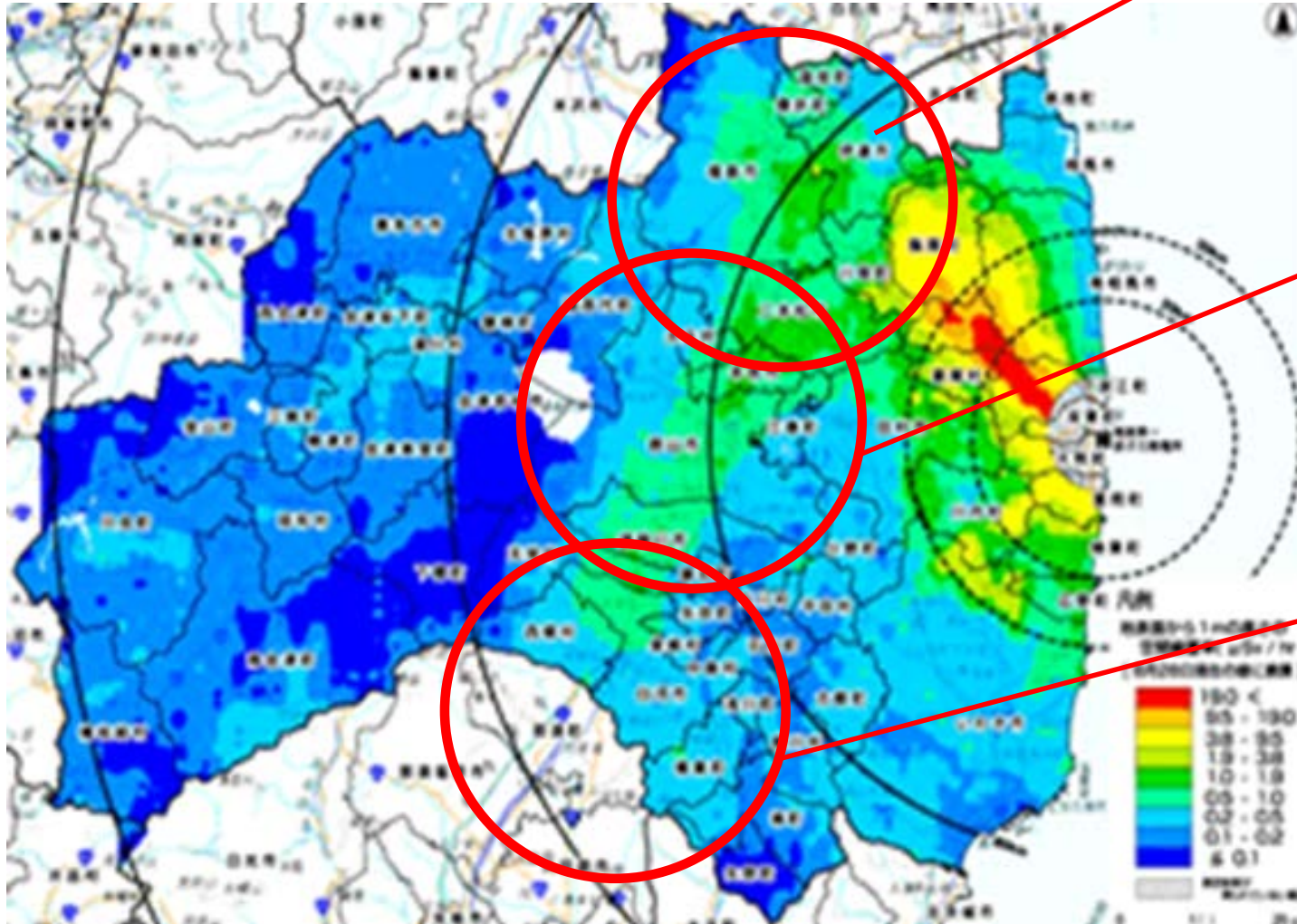
具体的な支援策

モデル事業

県北
福島市

県中
郡山市

県南
白河市



期待される効果

- 震災によって運動環境被害を受けた現在の小学生が、自分に合ったスポーツを発見し実践することによって運動の習慣化を促し、震災前の福島県における体力テストの平均値を上回ることによって「2016年福島県小学生体力問題」を解決する。
- 各「親子スポーツアワー」の間に設けられた宿題（運動チェックシート）を活用することで、家庭でも運動を行う動機づけとなり、実践すべき運動量の目安となる。
- 親子間でのコミュニケーションが深まり、子どもだけでなく保護者も運動を行い、体力の向上が見込まれる。
- これまでは各団体・協会等がバラバラに運動に関するプログラムを行ってきたが、この支援策では複数の組織が連携して行うものであり統一感のある取り組みとなる。

主な参考文献

- G.S.ケニヨン、B.D.マックファーソン(1988)「身体活動やスポーツにかかわりあうようになること-社会化の過程」G.S.ケニヨン、ジョン・W・Jr.ロイ、B.D.マックファーソン編著；桑野豊編訳『スポーツと文化・社会』ベースボール・マガジン社 pp.331-361.
- 朝日新聞(2011/04/20 夕刊)
- 福島県教育庁健康教育課「児童生徒体力向上推進事業」
<http://www.kenkou.fks.ed.jp/tairyoku/22tairyokukoujyou/tairyoku%20index.html>
(最終アクセス2015/10/22)

A group of children are participating in a tug-of-war competition. In the center, a boy in a grey t-shirt with '28 WEDDAY' printed on it is pulling with effort. To his right, another boy in a green and white shirt is also pulling. On the far left, a girl in a yellow shirt is laughing. In the background, an older man in a white shirt is watching. The scene is set in a room with a textured, orange-brown wall.

ご清聴ありがとうございました！